

## 平成23年度の熊本県温室効果ガス総排出量について

### 1 温室効果ガス総排出量について

熊本県の平成23(2011)年度の温室効果ガス総排出量は、1,271万6千トン(二酸化炭素換算)であり、京都議定書の基準年度である平成2(1990)年度以降、6番目に多い排出量であった。

この総排出量は、基準年度の総排出量(1,114万5千トン)と比較して14.1%増加、前年度(平成22(2010)年度)の総排出量(1,129万4千トン)と比較して12.6%増加するものであった(図1)。

### 2 部門別の温室効果ガス排出量について

運輸部門を除き、全ての部門で前年度よりも排出量が増加した(図2、表1)。

図1 温室効果ガス総排出量の推移

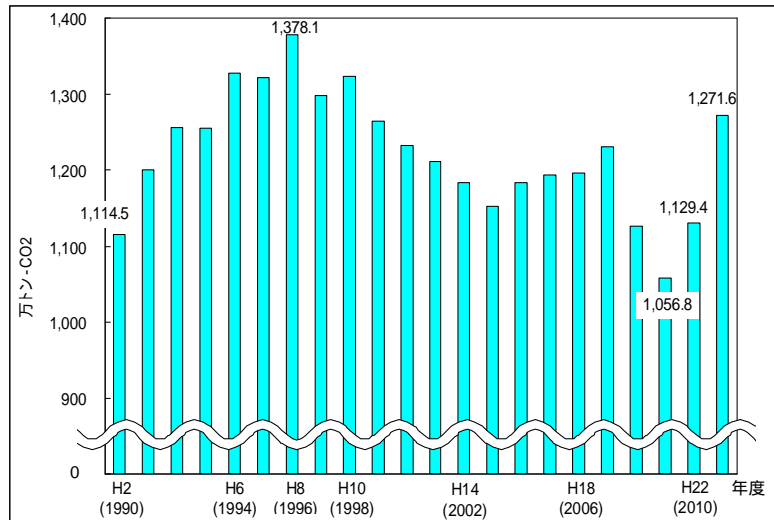


図2 部門別排出量の推移

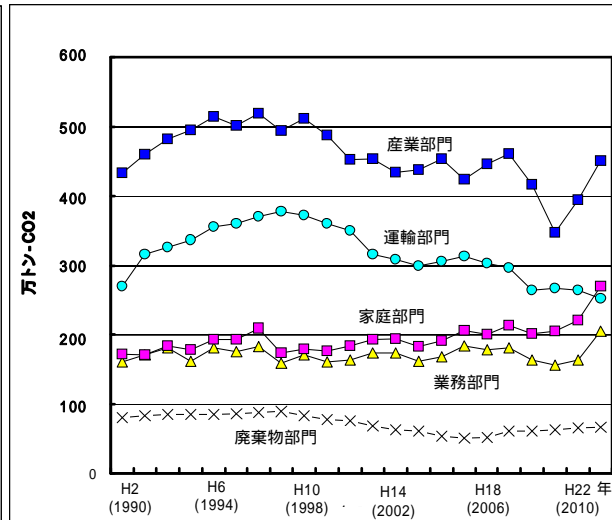


表1 部門別排出量の割合

部門	平成23 (2011)年度 排出量 (千t-CO2)	前年度比 (%)	平成2 (1990)年度比 (%)	シェア (%)
産業	4,498	14.0	4.0	35.4
運輸	2,526	-4.0	-6.5	19.9
家庭	2,700	21.9	57.1	21.2
業務	2,046	25.1	28.4	16.1
廃棄物	663	1.5	-17.2	5.2

### 3 温室効果ガス総排出量増加の要因について

電力などのエネルギー使用量は、産業部門、家庭部門、業務部門とも減少している(図3～5)が、火力発電の増加(図6)によって、化石燃料の消費量が増加し、温室効果ガス総排出量が増加したものと考えられる。

図3 <産業部門> 製造業における石油系燃料消費量の推移

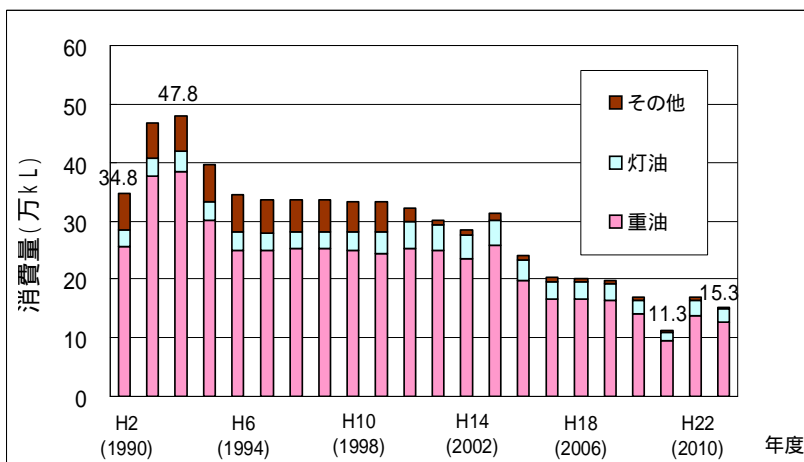


図4 <家庭部門> 販売電力量の推移

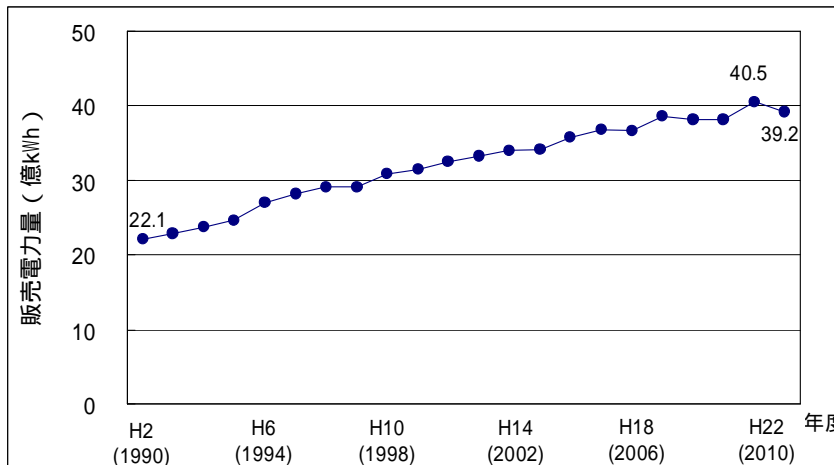


図5 <業務部門> 販売電力量の推移

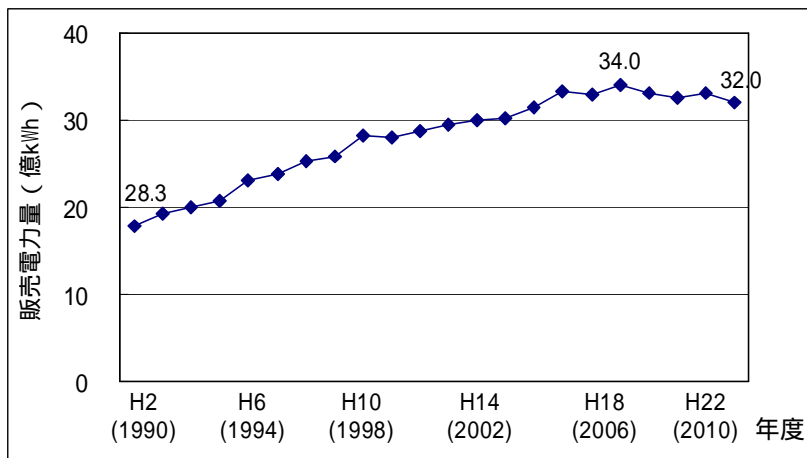
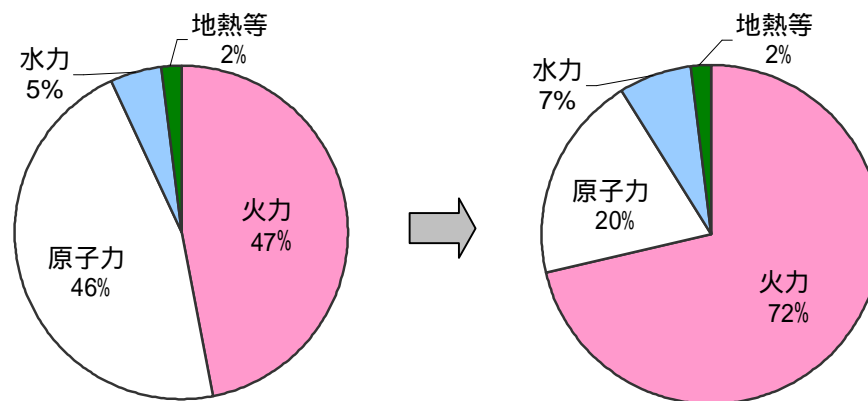


図6 電源構成の推移(九州、発電実績)



平成 22(2010)年度

平成 23(2011)年度